

平成 26（2014）年度 教員活動報告書（1/5）

学部・学科	臨床心理学部・臨床心理学科	職名	講師	氏名	ハセガワ チヒロ 長谷川 千紘
学歴	平成18年 3月 京都大学教育学部教育科 卒業 平成20年 3月 京都大学大学院教育学研究科臨床教育学専攻（心理臨床学講座）博士前期課程 修了 平成23年 9月 京都大学大学院教育学研究科臨床教育学専攻（心理臨床学講座）博士後期課程 単位取得後退学				
学位	平成20年 3月 教育学修士（京都大学 第162号） 平成26年 3月 教育学博士（京都大学 教博第162号）				
専門分野	臨床心理学				
専門資格	平成18年 4月 高等学校教諭一種免許状（国語）（平18高一第25号） 平成21年 4月 財団法人日本臨床心理士資格認定協会 臨床心理士（登録番号第20252号）				
所属学会	平成18年10月 日本心理臨床学会 平成20年 4月 日本箱庭療法学会 平成23年 5月 日本ユング派分析家協会（聴講生） 平成24年 4月 日本ユング心理学会				
受賞					
担当 授業科目	学 部 初年次演習、コミュニケーション・スキル演習、心理学実験査定（初級）Ⅰ・Ⅱ、心理学実験査定（中級）Ⅰ-A・Ⅰ-B・Ⅱ-A・Ⅱ-B、臨床観察実習、臨床心理学実践演習（箱庭療法2）				
論文指導	論文指導担当[主査]（該当なし） 論文審査担当[副査]（卒業論文： 7名）				
F D 活 動 ・ 教 育 実 績	1	科目名	科目カテゴリー	実施学期	履修者数
		心理学実験査定（中級）Ⅱ-A・Ⅱ-B	講義・演習・実習・ 実験	春・ 秋	24 名
		授業の概要： 発達検査（新版K式発達検査2001）について施行から初見作成まで習得することを目的に、乳幼児発達の基礎・ロールプレイによる検査体験・初見作成と発表を実施した。			
		教育活動の振り返り： 教育・医療・福祉など幅広い領域で用いられている発達検査に習熟するために、具体的に事例を取り上げて、学生が検査に積極的に取り組む機会を設けた。 教育活動の成果： 公刊事例やロールプレイを取り入れたことが体験的な学びにつながり、発達検査の習熟に加えて、一つの事例にじっくり向き合うという臨床心理学の基本的姿勢が身についた。 今後の課題： 発達検査という非常に実践的な内容を扱うため、一人一人の学びのペースをより丁寧にフォローしていきたい。			
2	2	科目名	科目カテゴリー	実施学期	履修者数
		コミュニケーション・スキル演習	講義・ 演習 ・実習・実験	春・ 秋	約20名
		授業の概要： 臨床心理学のみならず社会生活において非常に重要となる「コミュニケーション」について、言語的対話・身体・イメージ・プレゼンテーションなどの演習を行った。			
		教育活動の振り返り： 言語・身体・イメージなど多様なチャンネルのコミュニケーションを取り上げて演習を行うとともに、「振り返りノート」を用いて各回の体験を見つめ直す機会を設けた。 教育活動の成果： コミュニケーションのあり方を考えることを通して、自分自身のあり方を見つめる機会になったように思われる。「振り返りノート」に教員がコメントを書くことで、学生一人一人とやりとりが生まれ、相互的関係が構築されたことも意義深かった。 今後の課題： 各演習に対して得意・不得意もあると思われるので、個別により丁寧にフォローしていきたい。			

平成 26 (2014) 年度 教員活動報告書 (2/5)

F D 活 動 ・ 教 育 実 績	・学内外のFD関連講演会/セミナー等への参加実績 ・京都文教大学 2014年度 第1回 FD講演会「京都文教大学の初年次教育を考える ～ジェネリック・スキルを育てるための科目間連携～」への参加・研修。専門科目だけではなく、あらゆる学びのベースとなる「ジェネリック・スキル」を大学教育においていかに身につけることができるかについて、具体的に科目同士の関連を検討した。 ・各担当科目でコメント用紙の配布・回収・コメントなど。 学生によるフィードバックを受けることによって、① 学生一人一人の学びの様子（習熟度や意欲など）の把握、② 学生の意見を反映させての授業作り、③ 当該授業を含めた個別的学习相談、などが可能となった。 ・初年次演習（1回生春ゼミ）では、「教わる学びから取り組む学びへ」という大学における学習の基本姿勢を身につけることを目標に、レジュメ作成方法・PCの基本操作・プレゼンの方法・グループ・ディスカッションなどを教授・実践した。個人の学術的関心を活かし、具体的に調査・発表する機会を設けた。 ・臨床心理学実践演習（箱庭療法2）では、個人箱庭（作り手・見守り手）・グループ箱庭・アイテム作りなどを取り入れることで、様々な側面から箱庭療法を考えたり取り組んだりする機会を設けた。少人数の演習科目である特性を活かし、一人一人が自らのこころの動きを大切に見つめることができるように心がけた。 ・心理学実験査定（初級）Ⅰ・Ⅱでは、心理学実験および査定の基礎を身につけるべく、少人数のグループでの体験を重視した。2回生が臨床心理学の研究活動の第一歩をスムーズに踏み出せるよう、自作のレジュメやレポートへのコメントを通して、個別に対応した。また、苦手意識の強い心理統計の基礎についても補講等にてフォローした。 ・教育効果が高い、あるいは教育の一環として行われている課外活動等 ・1回生ゼミ生を中心に、大学生活や学習に関する個別相談・指導を行った。
H26 年度 研究課題	1. 心理臨床場面における「物語」の構造的特徴の検討 2. 心身症・身体疾患におけるこころの働きとケアに関する研究
平成 二十六 (2014) 年度の 研究活動の概要	1. 心理臨床場面で人はいかに自らを「物語る」のかについて、現代的意識のあり方や心身症・身体疾患を対象に検討した。物語と主体意識の関連について自験例から検討した論文を作成した。〈後述：(論文)〉 また、日本箱庭療法学会・木村晴子記念基金による出版助成の採択を受け、これまでの研究成果をまとめた著作の刊行準備を進めている。 2. 心身症・身体疾患におけるこころの働きとケアについて、主に甲状腺疾患を対象に調査研究を進めている。科学研究費助成事業学術研究助成基金助成金（若手研究B）および、京都大学こころの未来研究センター一般公募型プロジェクトの助成を受け 〈後述：(学外研究資金による研究活動・科学研究費補助金等含)〉、バセドウ病・乳頭癌の手術患者を対象に、手術という大きな身体的変容に伴ってどのような心理的变化が生じてくるのかを3つの心理査定を用いて検討し、心理療法的アプローチの可能性について考察した。本成果は、京都大学こころの未来研究センター研究報告会2014にて発表した。〈後述：(学会報告、学会活動)〉
平成 二十六 (2014) 年度の 主な研究成果等	(著書) (論文) 1. 「物語における〈私〉の現れ ―「私がない」ことを訴える青年期女性の夢の検討」、単著、平成27年3月、日本箱庭療法学会 箱庭療法学研究Vol.27№3 (pp.17-27) (学会報告、学会活動) 1. 「甲状腺疾患におけるこころの働きとケア ―手術患者のバウムテストに見る心身の関連の検討」、共同、平成26年12月、京都大学こころの未来研究センター 研究報告会2014、京都大学 稲盛財団記念館

平成 26 (2014) 年度 教員活動報告書 (3/5)

平成二十六年 (2014) 年度の主な研究成果等	(その他、エッセイ・翻訳・学術講演等) (調査活動) (学外研究資金による研究活動・科学研究費補助金等含) 平成25年度-平成27年度 科学研究費助成事業学術研究助成基金助成金 (若手研究B) 「甲状腺疾患における心身の関連についての実践的研究」 (課題番号25780411) 研究代表者 平成26年度-平成27年度 京都大学こころの未来研究センター一般公募型プロジェクト「甲状腺疾患におけるこころの働きとケア」研究代表者 (学内活動) 臨床心理学部研究報告編集委員会委員、オープンキャンパス委員
平成二十六年 (2014) 年度における活動	・ におの浜クリニック 非常勤心理士「平 25.4 より」
平成二十一年～二十五 (2009～2013) 年度の主な研究成果等	(著書) (論文) 1. 「箱庭制作に伴う物語生成過程の検討」、単著、平成22年3月、京都大学大学院教育学研究科紀要第56号 (pp.125-137) 2. 「箱庭制作に伴う物語の体験」、単著、平成23年4月、京都大学大学院教育学研究科紀要第57号 (pp.125-137) 3. 「小児医療における医療スタッフと臨床心理士との連携 一相互理解を深める「勉強会」の試み一」、共著、平成24年1月、日本小児医事出版社、小児科臨床第65巻第2号 (pp.319-326) 4. 「自閉傾向の3歳男児とのプレイセラピー 一“言葉の世界”と“言葉のない世界”をめぐる」、単著、平成24年3月、京都大学大学院教育学研究科心理教育相談室 臨床心理事例研究38 (2011) (pp.83-94) 5. 「箱庭療法における物語作り法の検討」、単著、平成24年3月、日本箱庭療法学会 箱庭療法学研究Vol.24 (2011) №3 (pp.35-51) 6. 「心理療法の効果と身心の変容」、共著、平成25年3月、科研費基盤研究 (A) 「身心変容技法の比較宗教学 一心と体とモノをつなぐワザの総合的研究」 (研究代表者：京都大学こころの未来研究センター・教授 鎌田東二) 研究年報 身心変容技法研究第2号 (pp.62-66) 7. “Psychological Characteristics of NEO-FFI and the Tree Drawing Test in patients with Thyroid Disease”、共著、平成25年6月、Psychologia-An International Journal of Psychological Sciences, 56(2),pp.138-153 8. 「「語り」と主体 一神経症と甲状腺疾患患者における語りの構造的特徴の検討」、単著、平成26年3月、日本箱庭療法学会 箱庭療法学研究Vol.26 (2013) №3 (pp.51-63) 9. 「発達障害へのプレイセラピーによるアプローチ 一新版K式発達検査2001を用いた検討一」、共著、平成26年3月、日本箱庭療法学会 箱庭療法学研究Vol.26 (2013) №3 (pp.3-14) 10. 「心理臨床場面における物語の位相 一パラダイムとしての物語の再検討」、単著、平成26年度3月、京都大学大学院教育学研究科 課程博士学位論文、228p (学会報告、学会活動) 1. “The Story Form in Sand-play Therapy”、単独、平成21年7月、The 2nd International Conference of the International Association of Jungian Studies. Cardiff University, Wales, UK 2. 「小児科領域における心理臨床に関する研究 (2) 一他職種との「勉強会」から連携について考える一」、共同、平成21年9月、日本心理臨床学会第28回秋季大会、東京国際フォーラム

平成 26 (2014) 年度 教員活動報告書 (4/5)

平成二十一
五 (2009～2013)
年度の主な研究成果等

(学会報告、学会活動 つづき)

3. 「甲状腺疾患患者の心理的特徴その2 ー心理テストによる比較研究ー」、共同、平成21年11月、第52回日本甲状腺学会学術集会、名古屋国際会議場
4. 「甲状腺疾患患者の主体性について (1) ーNEO-FFI, バウムテストからー」、共同、平成22年9月、日本心理臨床学会第29回秋季大会、東北大学
5. 「甲状腺疾患患者の主体性について (2) ー半構造化面接からー」、共同、平成22年9月、日本心理臨床学会第29回秋季大会、東北大学
6. 「バセドウ病患者における甲状腺機能の変化と心理的指標の関連 ーNEO-FFI とバウムテストの継時的検討からー」、共同、平成22年9月、日本心理臨床学会第29回秋季大会、東北大学
7. 「意識消失、脱力発作を呈した10歳女児とのプレイセラピー」、単独、平成22年10月、日本箱庭療法学会第24回大会、ノートルダム清心女子大学
8. 「バセドウ病患者のホルモン値とバウムテストの関連性」、共同、平成22年11月、第53回日本甲状腺学会学術集会、長崎ブリックホール
9. 「甲状腺疾患患者の心理的特徴 (1) ーNEO-FFIおよびバウムテストを用いた神経症群との比較からー」、共同、平成23年9月、日本心理臨床学会第30回秋期大会、福岡国際会議場
10. 「甲状腺疾患患者の心理的特徴 (2) ー半構造化面接の質的分析による神経症群との比較からー」、共同、平成23年9月、日本心理臨床学会第30回秋期大会、福岡国際会議場
11. 「慢性疾患児に対する心理的援助の可能性 ー小児科における心理療法に関する意識調査より」、単独、平成23年12月、グローバルCOE「心が活きる教育のための国際的拠点」総括シンポジウム、京都大学
12. 「Features of narrative in patients with thyroid disease」、単独、平成24年7月、IVth International Academic Conference of Analytical Psychology & Jungian Studies, Braga, Portuguese
13. 「甲状腺疾患患者の「語り」と主体」、単独、平成24年9月、日本心理臨床学会第31回秋期大会、愛知学院大学
14. 「発達障害へのプレイセラピーによるアプローチ (1) ー新版K式発達検査2001を用いた検討ー」、共同、平成24年10月、日本箱庭療法学会第26回大会、米子文化ホール
15. 「発達障害へのプレイセラピーによるアプローチ (2) ー治療プロセスの検討ー」、共同、平成24年10月、日本箱庭療法学会第26回大会、米子文化ホール
16. 「発達障害と診断される子どもの親面接」、共同、平成25年10月、日本箱庭療法学会第27回大会、大阪府立大学

(その他、エッセイ・翻訳・学術講演等)

翻訳：

1. 「第10章 グループ・プレイセラピー」、共訳 (当該章担当)、平成23年8月、創元社、串崎真志監訳、C・E・シェーファー編著『プレイセラピー14の基本アプローチ ーおさえておくべき理論から臨床の実践までー』 (pp. 195-215, 326p)

報告書：

1. 「小児科領域における心理臨床の実践と他職種との連携に関する研究」、共著 (本人担当部分抽出不可)、平成22年3月、京都大学大学院教育改革支援プログラム「臨床の知を創出する質的に高度な人材養成」平成21年度研究開発コロキウム報告書
2. 「慢性疾患児に対する心理的援助の可能性 ー小児科における心理療法に関する意識調査」、単著 (本人担当部分抽出不可)、平成24年3月、京都大学グローバルCOEプログラム「心が活きる教育のための国際拠点」総括シンポジウム報告書

(調査活動)

平成23年度-平成25年度 甲状腺疾患専門病院における心理調査

平成 26（2014）年度 教員活動報告書（5/5）

平成二十一年～二十五（2009～2013）年度の主な研究成果等	（学外研究資金による研究活動・科学研究費補助金等含） 平成25年度-（3年間） 科学研究費助成事業学術研究助成基金助成金（若手研究B）「甲状腺疾患における心身の関連についての実践的研究」（課題番号25780411）研究代表者 平成23年度 グローバルCOE「心が活きる教育のための国際的拠点」京都大学大学院教育学研究科・大学院生養成プログラム研究費「慢性疾患児に対する心理的援助の可能性」研究代表者
	（学内活動）
平成二十一年～二十五（2009～2013）年度の社会における活動	（NPO法人等の団体への参画） 平成22年 4月 日本箱庭療法学会事務局 事務局員 「平23.3まで」 平成23年 5月 日本箱庭療法学会・日本ユング派分析家協会 合同震災対策ワーキング・グループ事務局事務局員「平26.3まで」 （その他） 平成19年 4月 独立行政法人国立病院機構宇多野病院 非常勤心理士（心理相談・心理検査） 「平25.3まで」 平成22年 4月 1. 独立行政法人国立病院機構京都医療センター附属京都看護助産学校 非常勤講師（「人間関係論」）「平成22年度春学期」 2. 佛教大学教育学部 非常勤講師（「心理査定中級実習」）「平成23年度春学期まで」 平成23年 4月 1. 国立大学法人京都大学時間雇用教職員教育学研究科 ティーチング・アシスタント（授業補助：「臨床心理学課題演習」「教育心理学実習」）「平23.8まで」 2. 国立大学法人京都大学時間雇用教職員こころの未来研究センター リサーチ・アシスタント（研究補助）「平23.8まで」 3. 佛教大学教育学部 非常勤講師（「臨床心理文献演習」）「平成25年度春学期まで」 平成23年10月 京都大学こころの未来研究センター特定研究員「平26.3まで」 平成24年 4月 佛教大学教育学部 非常勤講師（「乳幼児の心（発達臨床心理学）」） 「平成24年度春学期」 平成24年 9月 1. 佛教大学教育学部 非常勤講師（「子どもと遊び」）「平成24年度秋学期」 2. 島根大学教育学部 嘱託講師（「発達臨床心理学概説」）「平成25年度春学期まで」 平成25年 4月 1. におの浜クリニック 非常勤心理士「現在に至る」 2. 京都学園大学人間文化学部 非常勤講師（「発達心理学Ⅰ」「発達心理学Ⅱ」） 「平26.3まで」